

母子里地区の主な課題（旭川大学の生活実態調査より）

1 母子里地区の居住状況（19世帯35人）

- ・高い高齢化率：59.4%（幌加内町全体：36.2%）
- ・高齢者世帯が多い：19世帯中12世帯
- ・高齢者単身世帯が多い：19世帯中5世帯（すべて75歳以上）
- ・若い人（15歳から64歳まで）が少ない：12人
- ・子どもが少ない：2人

〈課題〉

- 地区の人口減少と高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が多くなってきているため、高齢者の孤立が心配されます。

2 母子里地区のつながり（18世帯）

- ・子どもによるサポートは難しい（町外に住んでいる子（他出子）：92%）
- ・地区内に親戚が多い：9世帯に親戚関係（50%）
- ・親密な近所づきあい：友人づきあいの81%が地区内の方
- ・積極的な地域活動への参加：全世帯（100%）が何らかの地域活動に参加

〈課題〉

- 近所同士の助け合いにより、安心した暮らしが維持され、みんながコミュニティ活動にも積極的に参加していますが、地域の担い手となる若い人が少なくなっているため、今後のコミュニティ活動への影響が心配されます。

3 母子里地区の交通と買い物（18世帯）

- ・車の運転ができない高齢世帯が多い：5世帯
- ・1～3年以内に車の運転ができなくなると思う世帯が2世帯
- ・車に乗せてあげる世帯が多い：13世帯中10世帯（77%）
- ・JRバスは不便：4世帯
- ・移動スーパーで買い物をする世帯：4世帯
- ・移動スーパーへの要望：9件（頻度、品揃え、鮮度、価格）

〈課題〉

- 車に乗せてあげる世帯が多いですが、近い将来を含めると7世帯で車の運転ができない状況となり、今後も増加することが見込まれることから、JRバスや移動スーパーの利便性向上など、買い物支援の取組を検討することが必要と考えられます。

4 母子里地区の生活（18世帯）

- ・家庭菜園を持っている世帯が多い（12世帯/67%）
- ・軽作業などでも地域で働きたいと思う世帯が多い：14世帯
- ・暮らしで困っていること：買い物49%、地域の共同作業・野生動物の被害39%、働く場の不足28%、道路の除雪22%

〈課題〉

- 暮らしの上で困っていることについて、住民が何らかの形で働くことで解決できるような取組が必要と考えられます。

5 母子里での永住希望

- ・「ずっと住み続けたい」「できるだけ長く住みたい」をあわせた「永住希望」：16世帯88.9%

〈課題〉

- 住み続けたい人が安心して暮らすことができる条件を、みんなで考えることが必要と考えられます。